

2/9

April 11 (土)

夜帳を記す。汽車は、何処かどこやら更に判明しない。

午前六時過ぎのtownに到着。Billingsとある。Saving timeだから普通より午前五時に停車。場には僅かの電燈が見えるだけ。甚だ淋しいのだ。車が汽車も special trainとある。又上他の乗客も下車する者も勿論ない。

汽車はたゞ廣漠なる荒野の真っ只中を突如と、左に何処を見ても甚々降限の少ない色んな大野原だ。食事は急変して普通の物かきへられるねん。それは嬉しい。2リットの tray に紙の皿、だが依然として紙製の spoon と knife とは、お市ミソウ向の具と妻はいい。

晝飯後、一下士官ういきが、Winged River Canyon と云々名勝地だと知らせて歩く。両側には魏義の礫石の山だ、塵を流れる小流はあるが水は濁ってる。でも大陸風景を描き荒涼の間、正に一大変景と謂へる。

午後四時十五分 Casper と呼ぶ town に着く、人口約十八万と称す。停車中、男女が異様な目をして車中の日本人を眺めてゐる。護衛兵は停車毎に下車して、列車の両側を衛り立ち並ぶの。人が汽車に近着かんとする追ひ掛り。若うの故も生れを愛むのは、Casper

120

停車場構内で列車近づく。日本人の父子らに、
が悲痛の面持ちで、おれらの近きものか、おれは
送るかのやうに凝視し、離れ難き標子の真ん中
のつら。

僕等も此の Wyoming の真ん中に、日米戦のさ中、
斯く日本人と護送される途、見受けるは想像外で
ある。一人は六十内外の老人で服装から想像するに
農家か或は鉄道の就労者であらう、子らには
十八、九の肥満した偉丈夫だ、high school の生徒で
もあらう、所謂 Letter の運動スラエターと身軀を
つてゐる、向も亦くは親と誘ひ引き立て去つたか、
彼等がドライブに去つた自動車は最も旧式の Ford
sedan であつた。彼日本人老翁、心細い、此の
僻地に於て因に日本人列車と目撃した時、感
無量のものがあつたらしい。

午後四時五十分発車。車窓は江トと
高は降りる。やさしく停車場を過ぎるが、皆目
何処の町やら分らん。見る限り変装もふい、廣野
に面する。武装の兵は各 compartment の
両入口通し路に晝夜哨兵が立つるか、ちかちか
仲良く折りにあつては音らと談話を交へる。退屈
のまゝ寝るのも早ければ起きるのも随つて早い。
反対側の、代木庄を去るが午前四時頃ル起
き出て、サムライガムと市題目を唱へるのも
一風景だ。列車は Northern Pacific とだけは

721

判明しているもの、何処を馳せているか見当がつかない。
Sacramento 州会長の佐藤氏が、簡章と案内汽車
や冊子を持っており、今、おらの旅程はそれでも
更に判断できぬのだ。哨兵も Fort Lewis からの
者でたゞ研究にはぬるが、要するに Montana
Billings を南下し Wyoming の中央と、しだいに
ルビオンでぬる事にはおのづかしく、次は Denver
市と想像される。

April 12 (日)。

黎明の午前四時一大都市に車は入る。Denver
市と判る。

早曉に加ふるに要なき列車のついで、停車場は
むら暗黒と言っても良い程、寂然として夢にたつたも
のだ。後で判つたところ、此処で山根某君と云々一
青年が Salt Lake 市の都監獄に約四ヶ月の監
禁後、送られて乗車し各所に加はった。

約一時間廿分の停車後、午前五時廿分
発車、再び暗を縫ってした走るのである。

処々に油田らしく油波に井戸の構が見える、試
掘中のものでもあらう。自ら立つものはハイウェイに
自動車の見へない、平た、自動車國の自動車路に
斯く車の馳る姿と見受けたいは、戦馬のいか
んを物語り、石油の統制とラバーの制限が
其結果と如実に物語つてぬるとも云へやう。